

国際交流入門

人形とTV会議を通じた台湾との交流

金沢市立大徳小学校 清水 和久

kshimizu@spacelan.ne.jp

国際交流 英語活動

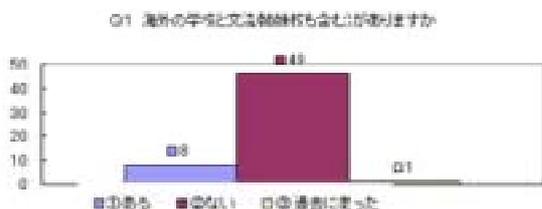
画像合成 台湾 TV会議

1. はじめに

金沢市では来年度より小中一貫英語教育をおこなうため英語の特区が認められた。英語が教科となる予定である。これまでの英語活動的なものから一步踏み込み、決められたカリキュラムに沿った実施が求められ、評価なども付け加えられるであろう。しかし、児童の英語を学ぶ動機付けとして、外国の児童と意思が通じる喜びや、物の交換を通して海外の児童と交流することがベースとして必要であると考え。本実践では、台湾の小学校と人形の交換や、英語のTV会議を通しての交流を紹介する。

2. 内容

1) 交流をしたいけどノウハウが分からない。



図表1 海外と交流校がありますか



図表2 海外との交流の興味があるか

教師側の願いとしては、異文化に興味を持つ、自己表現する力を持って欲しい、他人と関わる力を持って欲しい、視野を広げて欲しいという順で意見が多かった。

(2) 交流のねらい

英語を道具として実際に使う場の確保、PCのスキルアップ、異文化を知るきっかけとなる。

(3) 交流の開始—人形の交換

まずは、自分達の分身として、送る人形の作成である。各クラス男女各1名ずつ。合計6体送ることとした。まずどんな人形にしたいか、性格付けをおこなった。人形といっしょに送るデータの一部分として家族構成や、好きな教科、スポーツ、趣味等を考えた。その上でそれらがよくわかるような服装を考え、自分たちで服装をデザインした。なおデザインはphotoshop elements使っておこなった。

1) 人形の作成 (1学期末と8月中)



原版的作成

人形をデジカメで撮影し、その人形をもとに男子と女子の人形をデザインしていく。

デザインの作成

各自が、人形に顔や髪の毛を書いたり、服を着せていく。この時パーツごとに別々にレイヤーで書いておくことが重要である。

デザインの交流

お互いの児童が作ったパーツで気に入った部分を流用し、新しいデザインを作る。

実物の作成

作られた物を、一斉に並べて、投票し、そのクラスのデザインを決定する。決定した物を

もとに実物の人形を作成する。

2) 台湾への出発式 (9月18日)



図表4 完成した日本の留学生人形

人形を考えた生徒がそれぞれの人形のプロフィールや作成時の苦労した点などを発表しました。

3) 台湾の人形の歓迎式 (10月17日)



図表5 台湾からやってきた留学生人形

台湾の方が人形といっしょに大徳小学校を訪問。なぜか全員女の子で男子はちょっとがっかり。

4) 日本滞在記の作成



図表6 マトリクスごっこをするF子

滞在記はPCで作成するので、ここでデジカ

メのスキルやプレゼンソフトのスキルアップも目指していた。

(4) 交流の開始—英語でTV会議

年間35時間、週1回の英語活動を行ってきた。台湾も日本も英語は第二外国語であり、レベル的にも近いので。お互い習った単語を使いショートストーリーを作成。TV会議で見せ合い、使った単語をカードで提示してあ

てっこをした。台湾の子どもは顔は日本人とほとんど変わらないが、流ちょうな英語で話かけてくれた。

習った英語を実際に使う場面としての効力は絶大であった。



(元気イングリッシュカードより)

3. 考察

・人形を使った交流は、昨年度ディベアープロジェクトとして台湾の別の学校と行っている、しかし今回はよりリアルな人形を使っておこなったため、自分との同一視ができて、自分の分身としての留学生の意識を強くもてたように思われる。

・人形という媒介を通して、デジカメの使い方や、日記の作成を通してパソコンでのまとめ方、人形を中心とした物語の作成力を付けることができた。

・アジアの国の人と話す時も英語が必要であり、世界共通語としての英語を認識することができた。

・英語って役に立つんだねという実感